

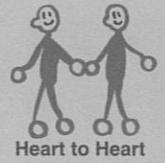
ともしび通信

コープともしびボランティア振興財団

〒658-0084 兵庫県神戸市東灘区甲南町2丁目1番20号(コープリビング甲南2階)

TEL078-412-3930 FAX078-412-3871

発行人=竹本 成徳 編集人=宮内 明彌



第33号
2002年10月発行

長期休暇ボランティア体験学習

これからの活動や進路など 生かせる体験学習になりました

5年目を迎える「長期休暇ボランティア体験学習」。今年も20人を超える学生たちが参加してくれました。

7月27日(土)、オリエンテーションを行い、車椅子の押し方や話し相手の仕方、高齢者について学習。その後、それぞれの施設で体験学習をさせていたのですが、学生にとっては聞くことやるとでは大違いのようでした。

参加した学生たちは、こんな感想を寄せてくれました。「机上で勉強していることと、現実の業務とは、理解の度合いが違い、大変自分自身のためになった」「ボランティアをする前に思っていた高齢者のイメージや話の仕方などが少し違っていたので、実際に体験しなくてはわからないことが多かったと実感しました」

「うらしま太郎」的体験学習 出前講座

6月15日(土)、多可郡加美町に出向き婦人会の100人近くの方々に高齢者疑似体験をして頂きました。

加美町は90%近くが3世代同居家族で特に長寿の方が多く、兵庫県下でトップの地位を占めています。それだけに、体験をする中で高齢の家族を思い浮かべ、心当たりになることが多かったようです。加美町では小学

校、中学校、婦人会、社会福祉協議会のボランティアの方等多



体験グッズを装着中



店内の散歩介助

今回の体験を通して多くの学生が、ボランティアの楽しさや意味を身体で感じ、学んでもらえればうれしいことです。この5年の間には多くのボランティアや福祉関係に進む学生たちもでてきました。高校1年の時から同じ施設で3年間、ともしび財団の体験学習を通して施設ボランティアとして活動してきた高校3年生の男子学生は、来春卒業後は福祉関係の学校に

くの方がこの疑似体験を学び、「お年寄りが住みやすい町」にしてくださいと思っています。

一方、総合学習の始まった教育現場でも、福祉教育の一環として高齢者疑似体験を取り入れるところも増え、まずは先生方が体験をして学習案作りをされるようです。

いずれにしても高齢者の身体的機能低下や心理変化を、擬似的に体験することで、皆が住みよく人に優しい社会づくりに参加していただければと思います。

行く、と報告にきてくれました。ボランティア体験が進路を決める大きな足がかりになったようです。

また、福祉系専門学校に通う女子学生は体験学習の後、1週間に1回ボランティアとして、体験学習をした施設で活動を続け、施設の責任者からも利用者の方からも慕われるボランティアになっていきます。

施設は今、実習や研修の学生の受け入れに大忙しで、利用者の日常性をも乱しかねないとの話も耳にしますが、この体験学習で参加する学生たちが「ともしび財団からの学生はいいボランティアだった」と誉めていただけることが何よりです。



上手に指先が動かない